



サーベイランス委員会

発表日 2023年7月20日
発表者 サーベイランス委員会
委員長 高嶋 直敬



サーベイランス委員会設置の経緯

2006年 取組宣言
SC推進協議会設置

2007年～2010年
外傷データの収集やアンケート調査の実施

課題

データ分析に基づく取組への
フィードバックが不十分

「セーフコミュニティの指標4、5、6」をカバーする組織

2011年 サーベイランス委員会設立

サーベイランス委員会の位置付け

推進協議会

サーベイランス委員会

対策委員会

乳幼児

交通

高齢者

防犯

スポーツ

防災

自殺

推進本部

日本セーフコミュニティ推進機構(JISC)

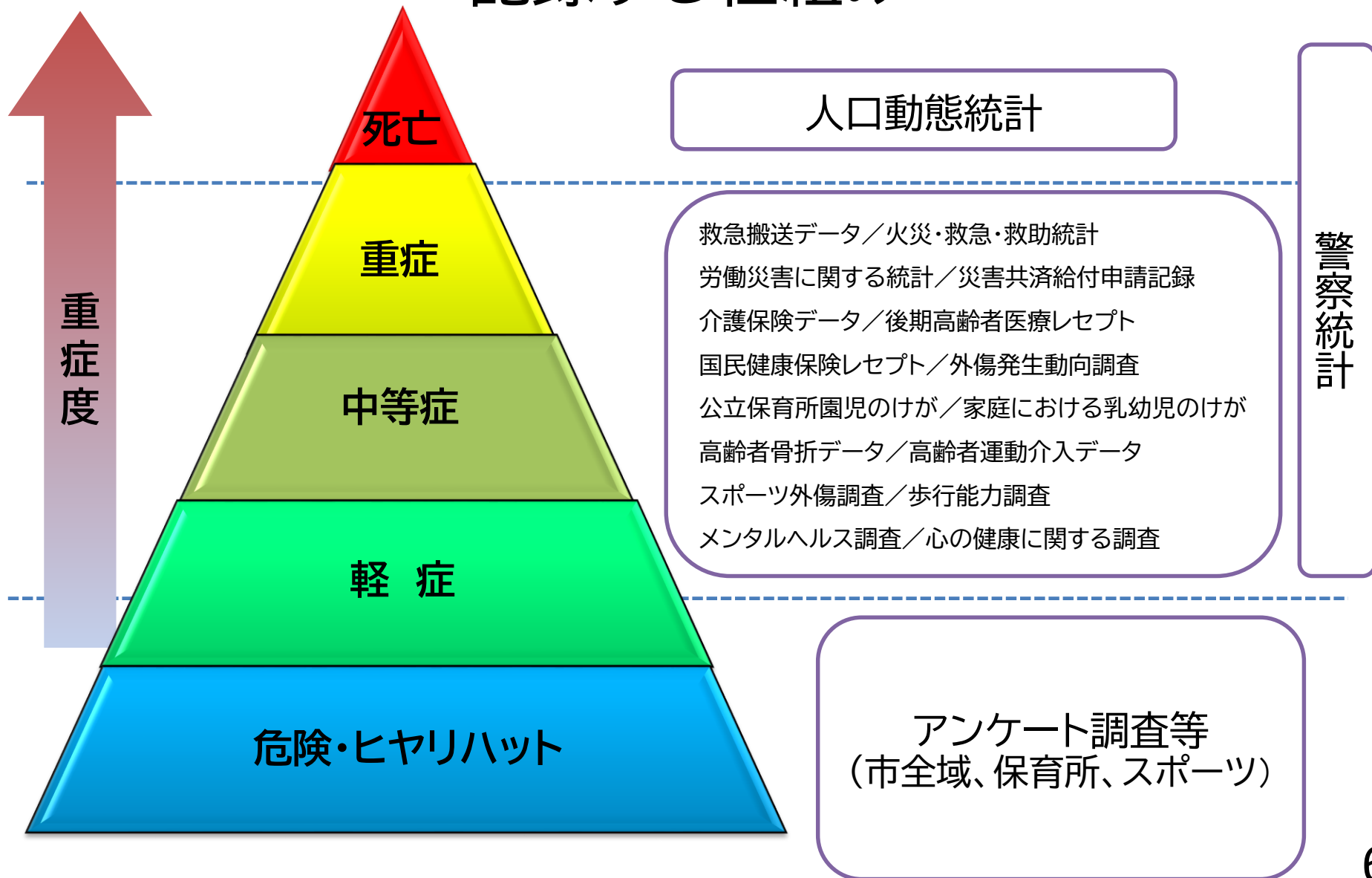
サーバイランス委員会の構成

	所属団体	役職
1	京都府立医科大学大学院医学研究科 教授	委員長
2	京都府南丹保健所 所長	副委員長
3	京都府立医科大学名誉教授・京都先端科学大学 客員研究員	
4	亀岡市医師会	
5	元畑野町自治会長(地域代表 SC経験者)	
6	亀岡警察署 生活安全課長	
7	亀岡消防署 警防課長(データ提供者)	
8	亀岡市総務部長	

サーベイランス委員会の役割

- ① 外傷発生状況等に関するデータ収集・分析
- ② SCの方向性決定に必要な情報提供
→重点領域(対策委員会)の設置
- ③ SCプログラムに係る根拠データの情報提供
及び評価指標の提案
- ④ 取り組みの効果検証、改善提案

外傷の発生頻度と原因を継続的に記録する仕組み



SCサーバイランスを構成する主なデータ①

データ	対象	担当委員会	関係機関	頻度
人口動態統計	全住民	全対象	国・京都府	毎年
厚生労働省 自殺統計	全住民	自殺	国	毎年
国勢調査	全住民	全対象	国	5年毎
警察統計	全住民	交通安全 防犯、自殺	亀岡警察署	毎年
救急搬送データ	全住民	全対象	亀岡消防署	毎年
介護保険データ	全住民	高齢者の安全	亀岡市 (高齢福祉課)	毎年
国民健康保険 レセプトデータ	全住民	高齢者の安全	亀岡市 (保険医療課)	毎年
スポーツ外傷調査	スポーツ 少年団員	スポーツ	亀岡市 (生涯スポーツ課)	3年毎

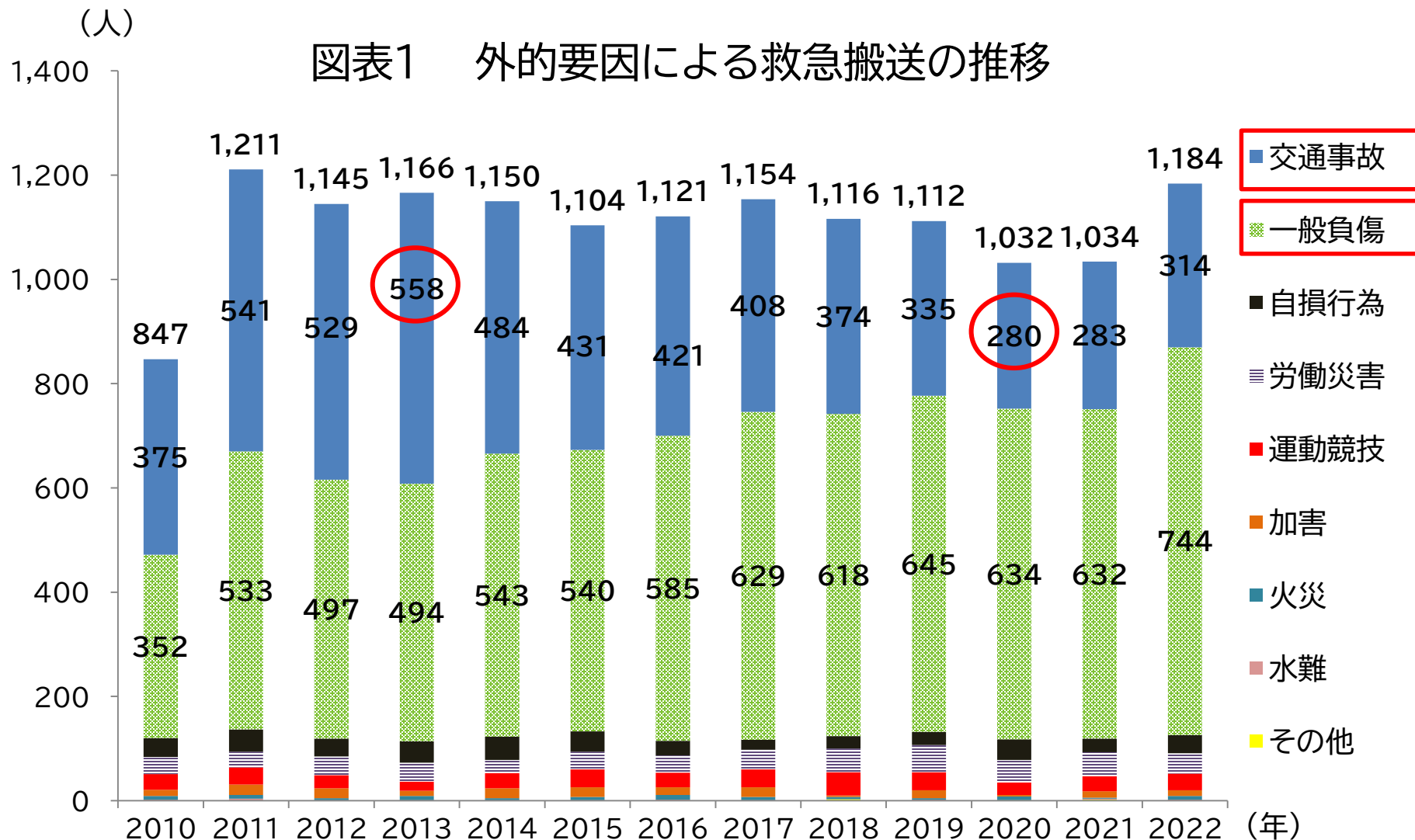
SCサーベイランスを構成する主なデータ②

データ	対象	担当委員会	関係機関	頻度
学校保健データ	小・中学生	スポーツ	亀岡市 (教育委員会)	毎年
公立保育所 保育士アンケート調査	園児	乳幼児	亀岡市 (保育課)	毎年
公立保育所園児 外傷データ	公立 保育所	乳幼児	亀岡市 (保育課、公立保育所)	毎年
スポーツ少年団 指導者アンケート調査	スポーツの 指導者	スポーツ	亀岡市 (生涯スポーツ課)	3年毎
家庭内の事故予防調査 アンケート	乳幼児 保護者	乳幼児	亀岡市 (保健センター)	毎年
SCアンケート調査	全住民	全対象	亀岡市 (自治防災課)	随時

救急搬送データによる 亀岡市の外傷の概要

亀岡市の外傷状況(2010年～2022年)

一般負傷と交通事故による外傷が多い

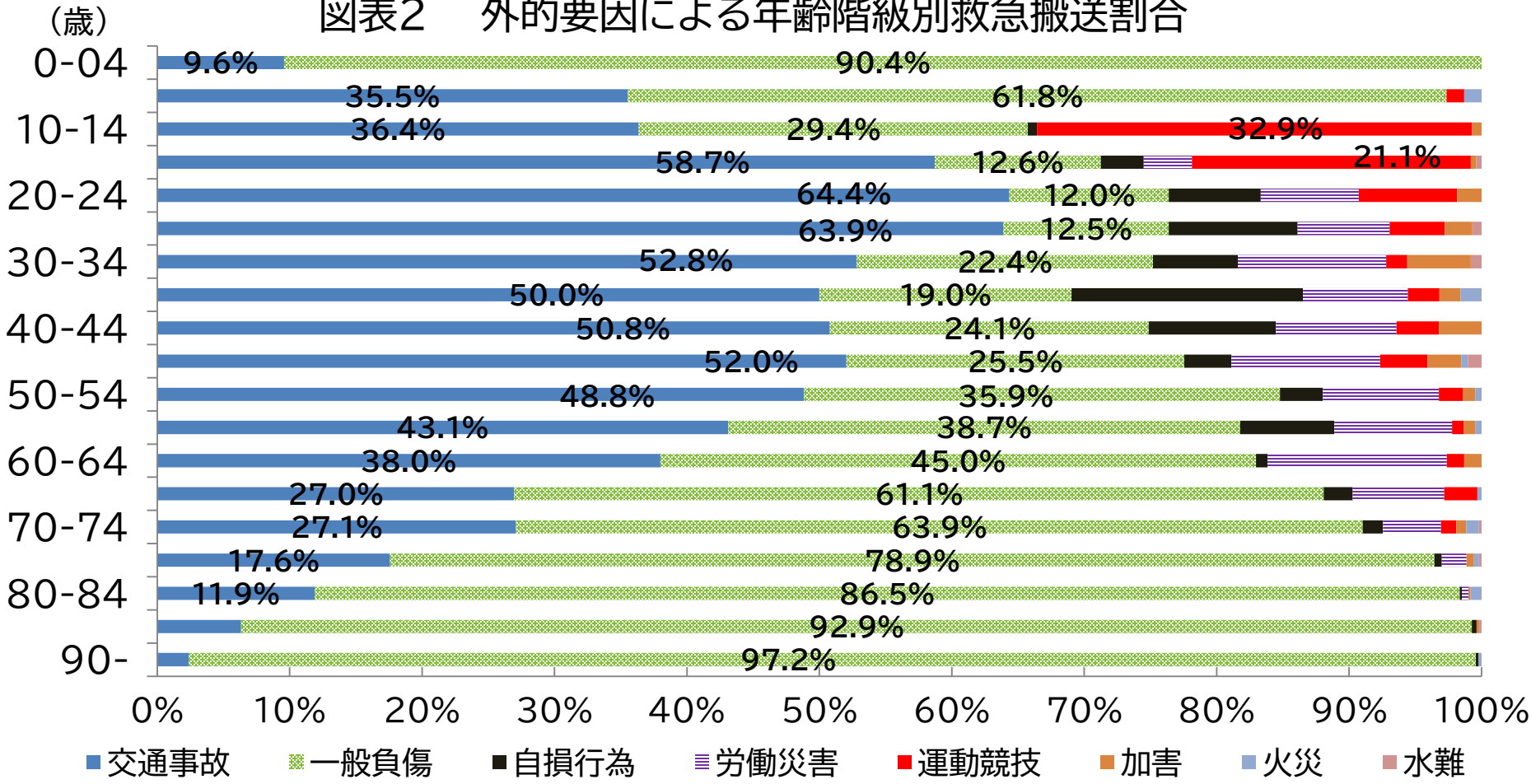


出典:救急搬送データ

亀岡市の外傷状況(2018年～2022年合計値)

救急搬送データからみた重点的な対策領域

図表2 外的要因による年齢階級別救急搬送割合

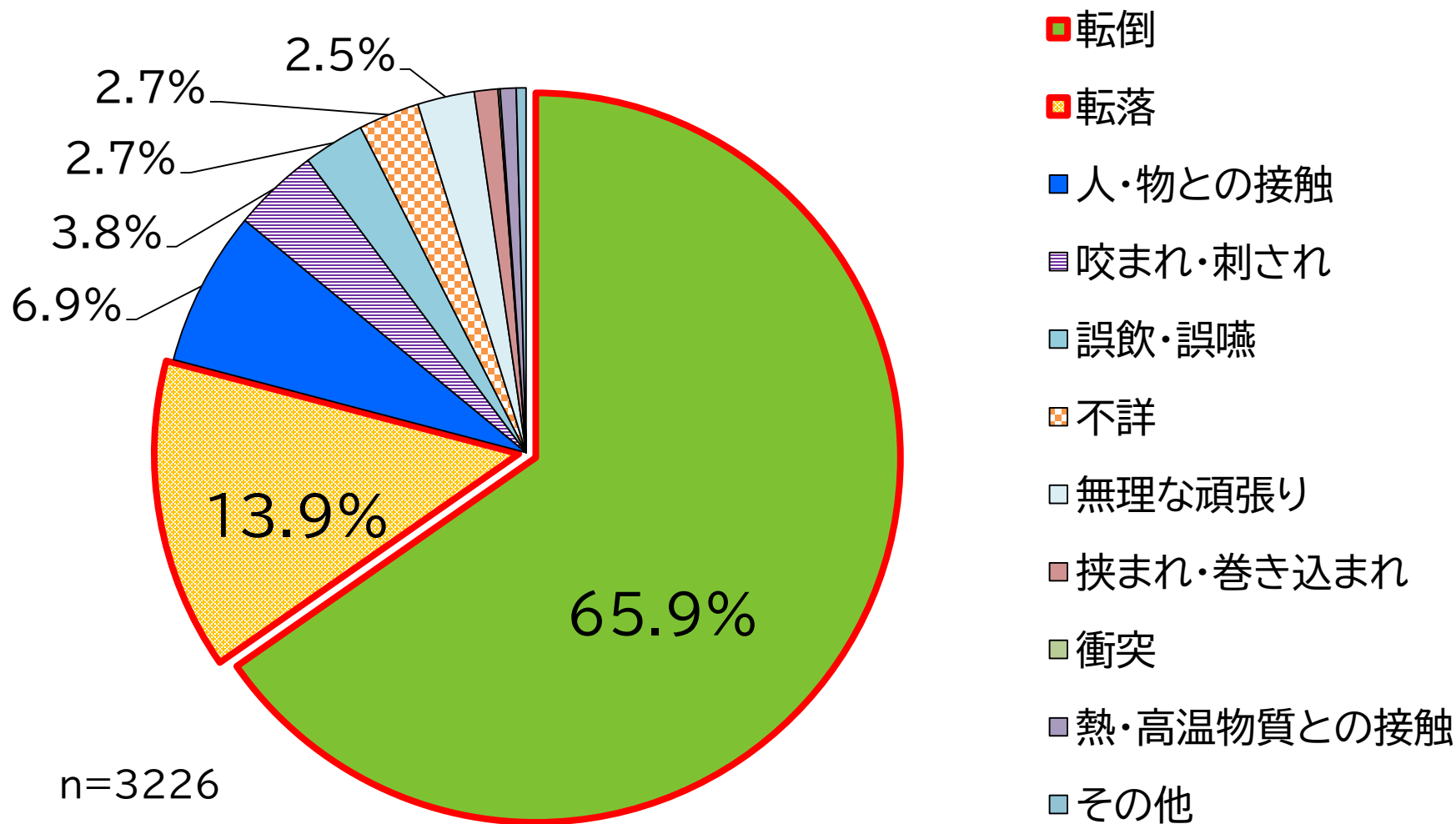


0-4歳のケガ⇒乳幼児の安全、運動競技中のケガ⇒スポーツの安全、自損行為⇒自殺対策、交通事故⇒交通安全対策、高齢者の一般負傷⇒高齢者の安全年代と分野に応じて、それぞれの対策委員会で取り扱っている

亀岡市の外傷状況(2018年～2022年合計値)

一般負傷は「転倒・転落」が約8割を占めている

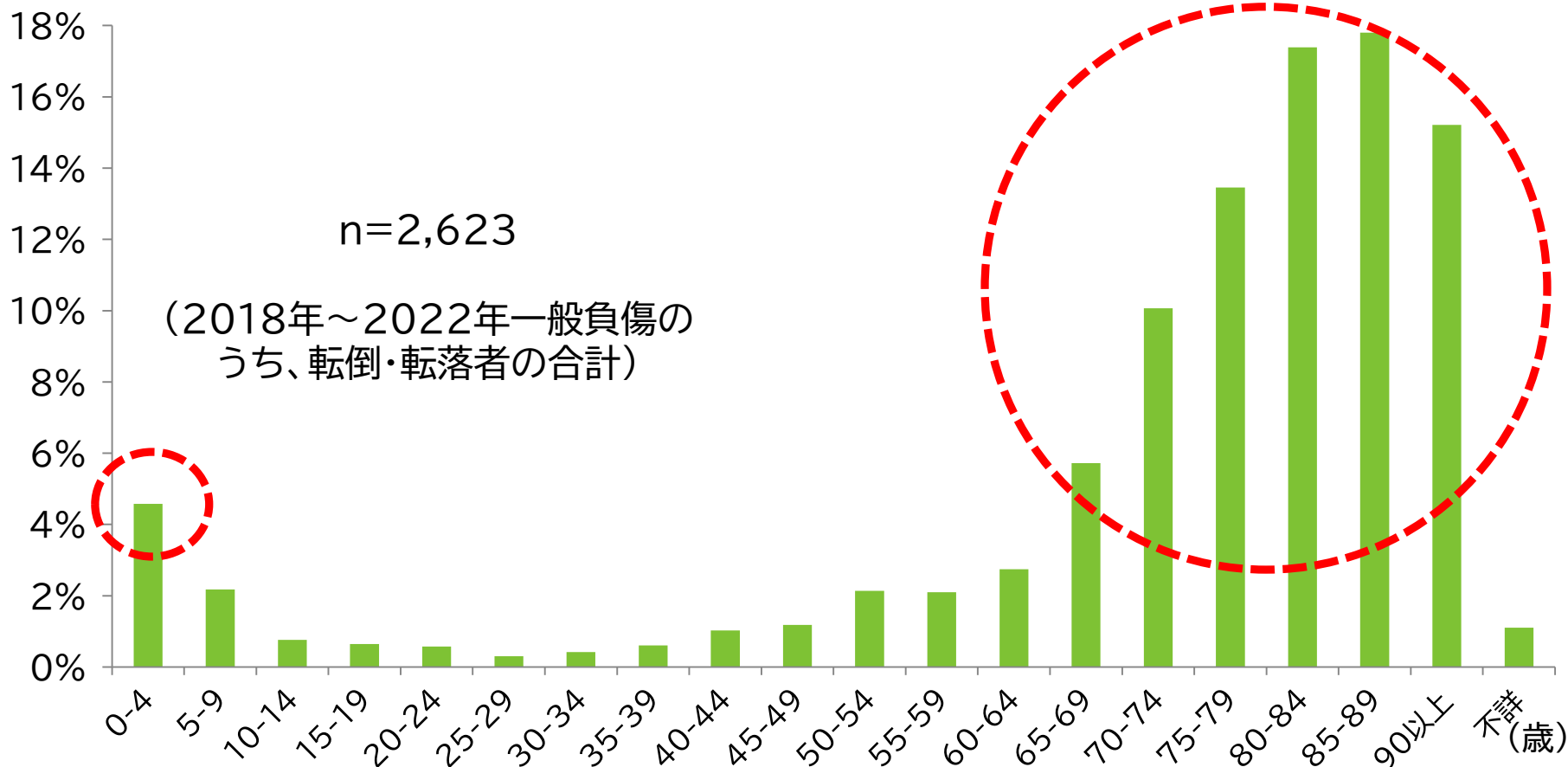
図表3 一般負傷の内訳



亀岡市の外傷状況(2018年～2022年合計値)

一般負傷のうち、転倒・転落は「0-4歳」「65歳以上」が多い

図表4 一般負傷の転倒・転落者 年齢階級別の割合



人口動態統計に基づく
亀岡市の外傷による死亡・けが等の状況

亀岡市の外傷状況(2013～2021年)

図表5 死亡原因上位10項目(2013～2021年総数及び3箇年平均)

	死亡原因	死亡者総数 (名)	構成比	2013～ 2015年 3か年平均(人)	2016～ 2018年 3か年平均(人)	2019～ 2021年 3か年平均(人)
1	悪性新生物	2,262	29.7%	239	264	252
2	心疾患(高血圧症を除く)	1,297	17.0%	136	148	149
3	脳血管疾患	668	8.8%	75	70	77
4	肺炎	516	6.8%	74	53	45
5	老衰	431	5.7%	44	46	54
6	その他の呼吸器系の疾患	426	5.6%	44	45	54
7	腎不全	151	2.0%	18	15	18
8	不慮の事故	148	1.9%	13	20	17
9	その他の消化器系の疾患	129	1.7%	14	11	19
10	自殺	122	1.6%	18	9	14

2013年～2021年の9年間で、不慮の事故で148人、自殺で122人が死亡している。
セーフコミュニティにおいて、交通安全、転倒・転落予防、自殺予防の更なる対策が求められる。

亀岡市の外傷等状況(2013～2021年合計値)

図表6 年齢階級別にみた外傷死亡原因(2013～2021年合計)

年齢階級	死亡者数	1	2	3	4	5
0-9歳	2名	交通事故、窒息				
10-19歳	2名	自殺				
20-29歳	24名	自殺	溺死及び溺水	転倒・転落、他殺、その他の外因		
30-39歳	31名	自殺	交通事故	その他の不慮の事故	中毒、他殺	
40-49歳	31名	自殺	その他の外因	交通事故、中毒	転倒・転落 窒息	
50-59歳	26名	自殺	その他の不慮の事故	窒息	交通事故、転倒・転落 その他の外因	
60-69歳	39名	自殺	その他の外因	交通事故	その他の不慮の事故	溺死及び溺水 窒息、火災
70-79歳	54名	自殺	その他の外因	交通事故、転倒・転落		その他の不慮の事故
80-89歳	76名	その他の外因	その他の不慮の事故	転倒・転落	窒息	自殺
90歳以上	44名	窒息 その他の外因		転倒・転落	その他の不慮の事故	自殺

10歳代から70歳代までの幅広い年齢階級で「自殺」が最も多く、次いで「交通事故」「転倒・転落」が続く。そのため、本市では、「自殺対策委員会」「交通安全対策委員会」「高齢者の安全対策委員会」で予防の取り組みを行っている。

出典：人口動態統計(厚生労働省)

亀岡市の外傷等状況(2013年～2021年)

図表7 不慮の事故・自殺等による死亡者数

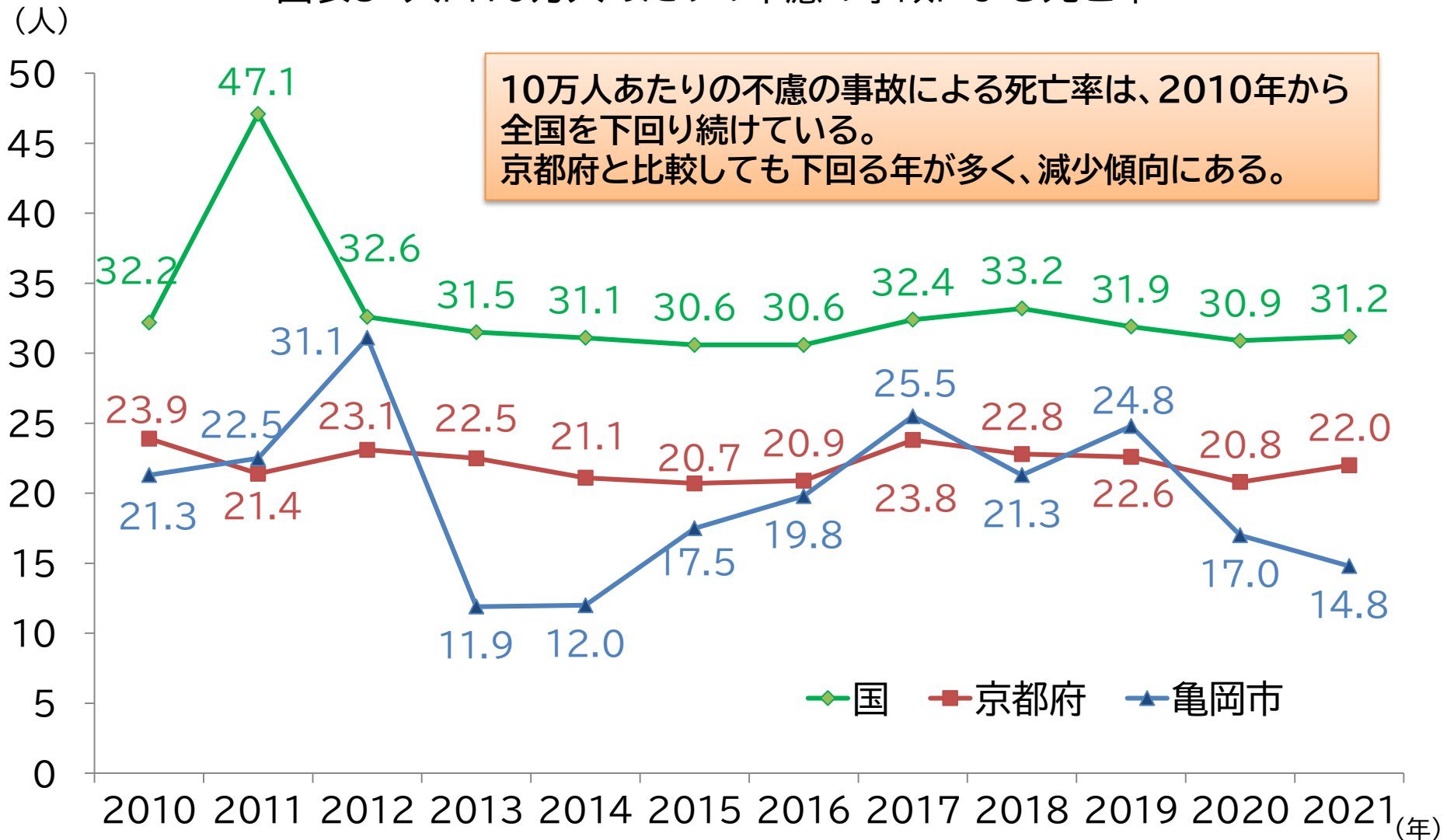
(人)

	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
不慮の事故	11	11	16	18	23	19	22	15	13
交通事故	1	1	2	5	4	2	1	4	4
転倒・転落	5	2	2	0	6	5	5	6	4
溺死及び溺水	0	1	0	1	1	2	0	1	0
窒息	1	3	5	6	2	7	7	1	2
煙および火災への曝露	1	0	1	0	0	0	1	0	0
有害物質による中毒	1	1	0	0	0	0	1	0	0
その他の不慮の事故	2	3	6	6	10	3	7	3	3
自殺	16	20	18	8	11	8	14	19	8
他殺	1	0	0	0	0	0	0	0	1
その他の外因	2	4	5	7	9	11	5	7	7
合計	30	35	39	33	43	38	41	41	29

「交通事故」「転倒・転落」「自殺」いずれも増減を繰り返しており、抜本的な解決には至っていない。新型コロナ禍以前以後での件数の変化にも着目し、分析を続ける。

亀岡市の死亡者状況(2010～2021年)

図表8 人口10万人あたりの不慮の事故による死亡率



出典:人口動態統計(厚生労働省)

セーフコミュニティアンケート

アンケートの実施内容

時期 2022年2月
(前回 2016年7月)
対象 市民・市外在住者
年齢 全年齢
有効回答 617件(市内585件、市外32件)

男性:226名 女性:385名 その他:6名

※亀岡市公式LINE、Facebook、ホームページで広報

**セーフコミュニティ
アンケート実施中**

2月3日(木)～16日(水)



お持ちのスマートフォンのカメラ機能で
下の「QRコード」をズームしていただきますと
アクセスできます。



セーフコミュニティ活動を
よりよく展開していくために
ぜひ御協力をお願いします。
所要時間 約5分です

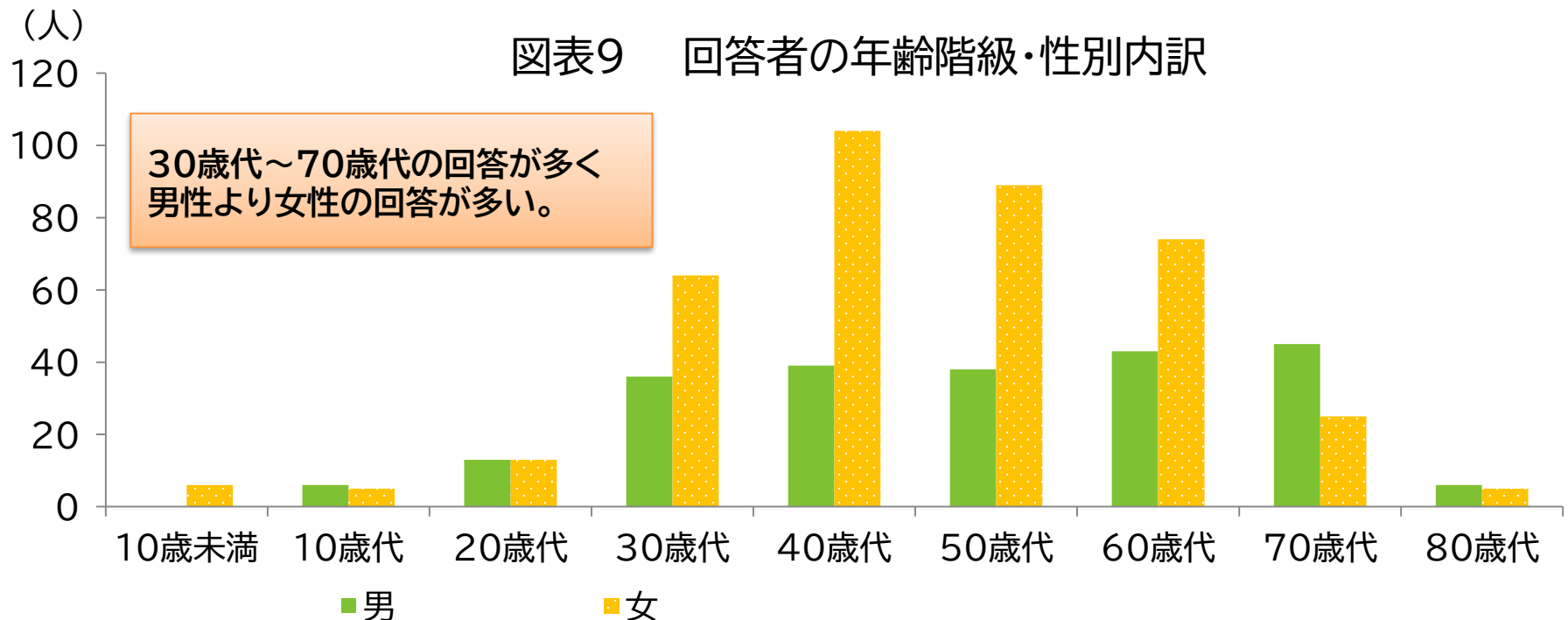
回答ページへアクセス

サーベイランス委員会が
アンケート内容の検討・分析を実施

セーフコミュニティアンケート

年齢 男性:①70歳代(19.9%) ②60歳代(19.0%)
 階級 女性:①40歳代(27.0%) ②50歳代(23.1%)

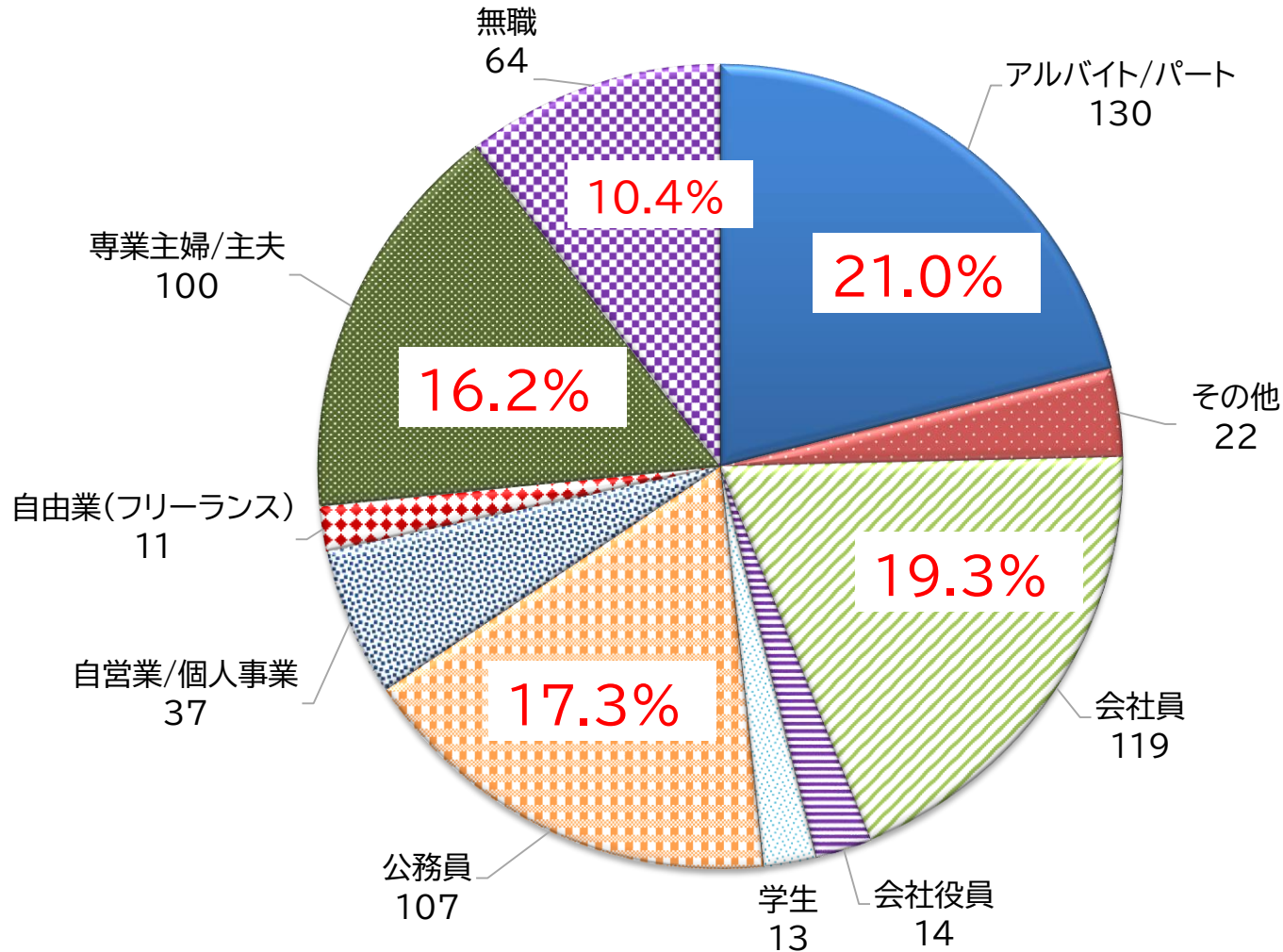
職業 男性:①公務員(28.8%) ②会社員(24.8%)
 女性:①パート・アルバイト(30.6%)
 ②専業主婦(25.7%)



セーフコミュニティアンケート

図表10 職業別の回答割合

アルバイト・パートの回答が最も多く、会社員、公務員、専業主婦(主夫)が続く。

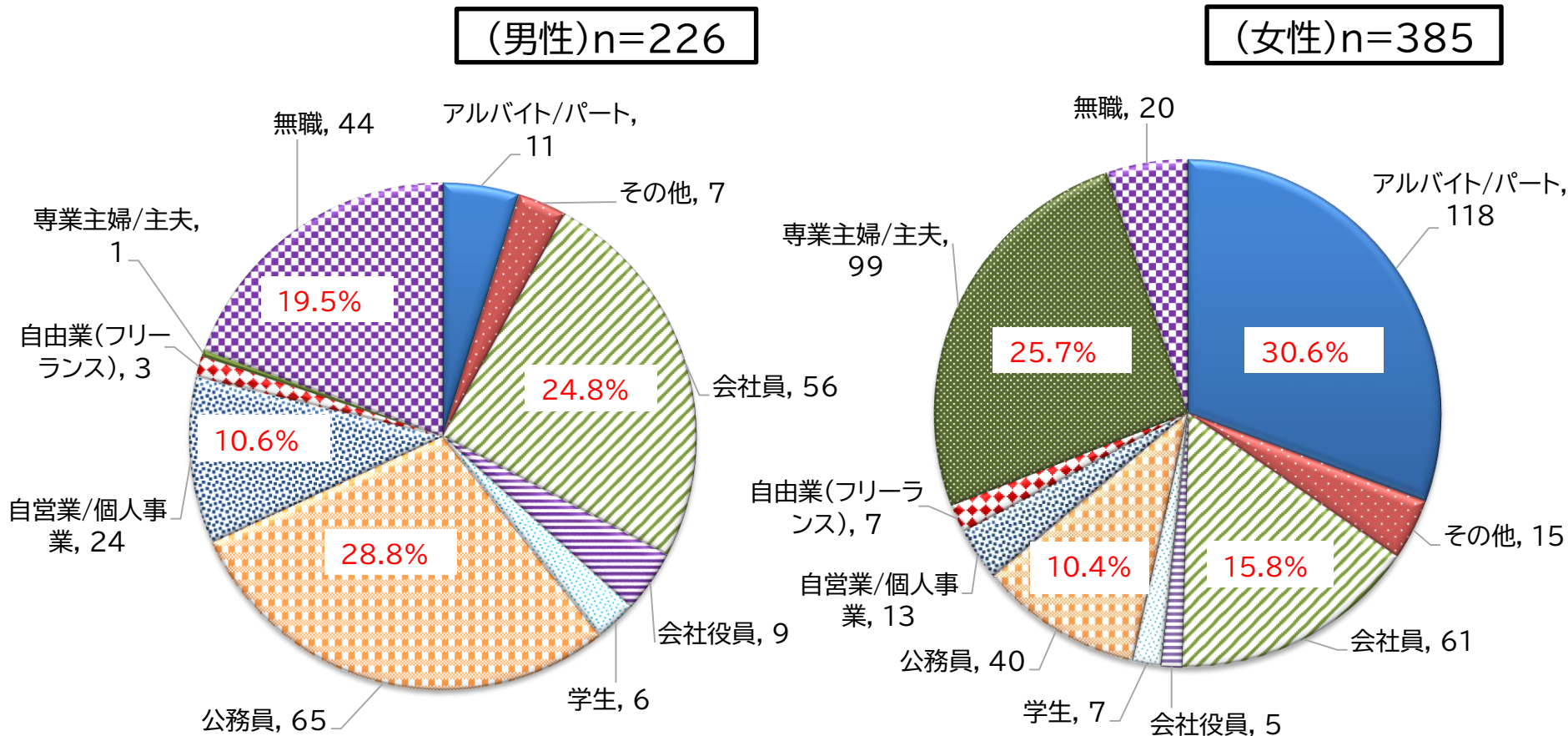


n=617

セーフコミュニティアンケート

図表11 男女の職業別の回答割合

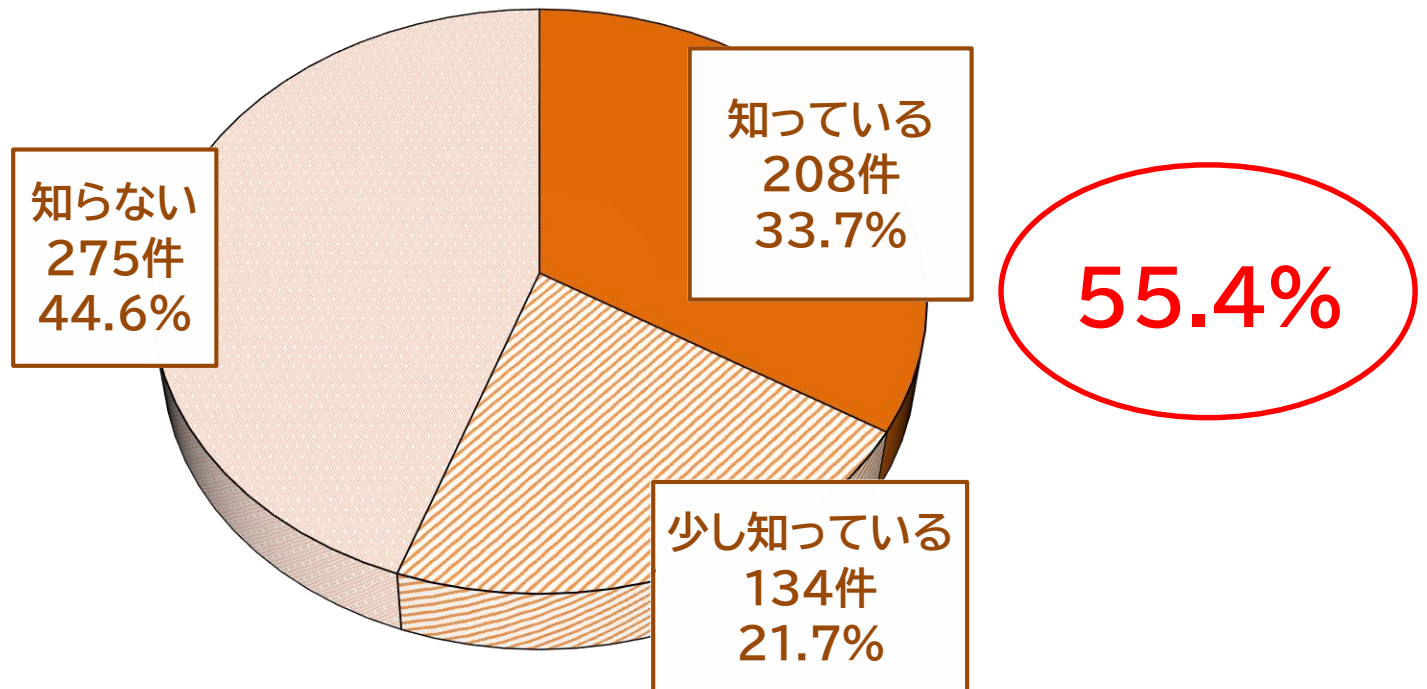
男性では公務員が最も多く、次いで会社員が多い。
女性はアルバイト・パートが最も多く、次いで専業主婦が多い。



セーフコミュニティアンケート

回答者の**半分以上**がセーフコミュニティの取組を「知っている」「少し知っている」と回答

図表13 亀岡市はセーフコミュニティによる「安全安心なまちづくり」を推進していますが、あなたは、この取組を知っていましたか。

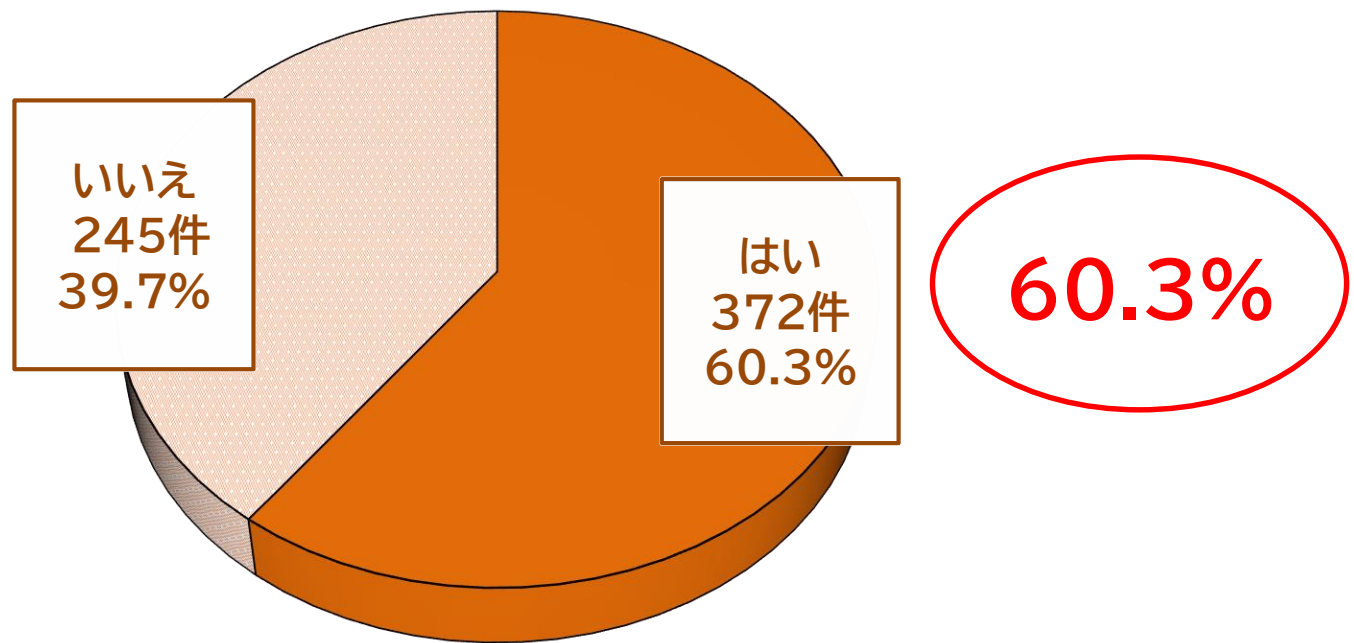


n=617

セーフコミュニティアンケート

回答者の**6割**が市内JR4駅に防犯カメラが設置されているかとの問いに「はい」と回答

図表14 亀岡市内のJR4駅(馬堀駅・亀岡駅・並河駅・千代川駅)周辺に防犯カメラが設置されていることを知っていますか。

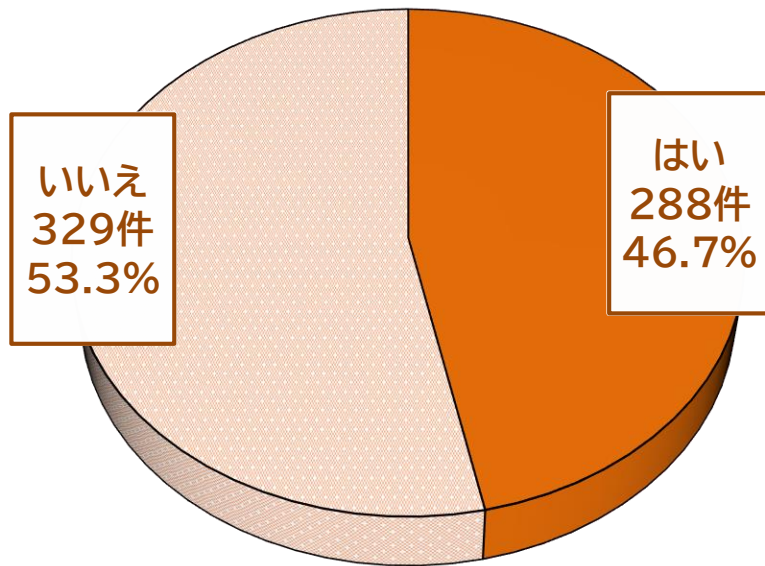


n=617

セーフコミュニティアンケート

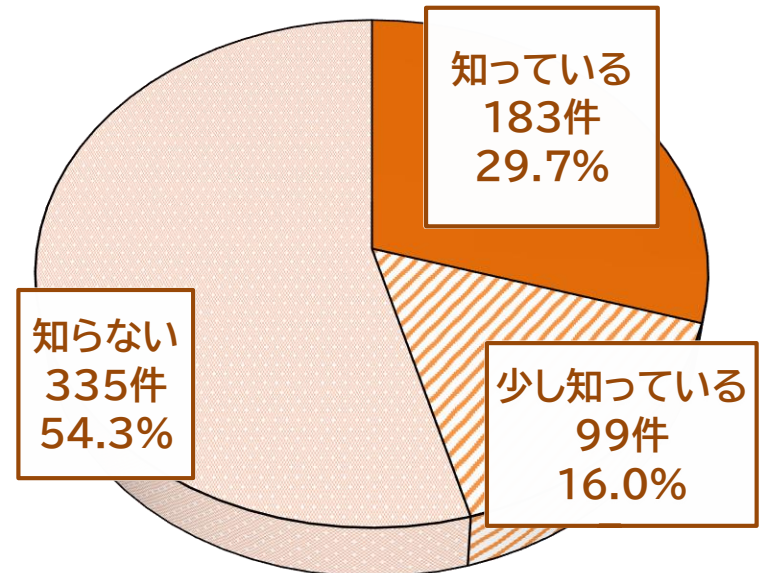
かめおか『まち・レコ』プロジェクトと「ドライブレコーダー協定によるまちの見守り協定」の認知度はいずれも5割に届かず。さらなる広報が必要。

図表15 市民の方が自家用車等に設置している「ドライブレコーダー」を活用して町の見守りを行う「かめおか『まち・レコ』プロジェクト」を知っていますか。



n=617

図表16 ドライブレコーダーによるまちの見守り協定の取組を知っていますか。

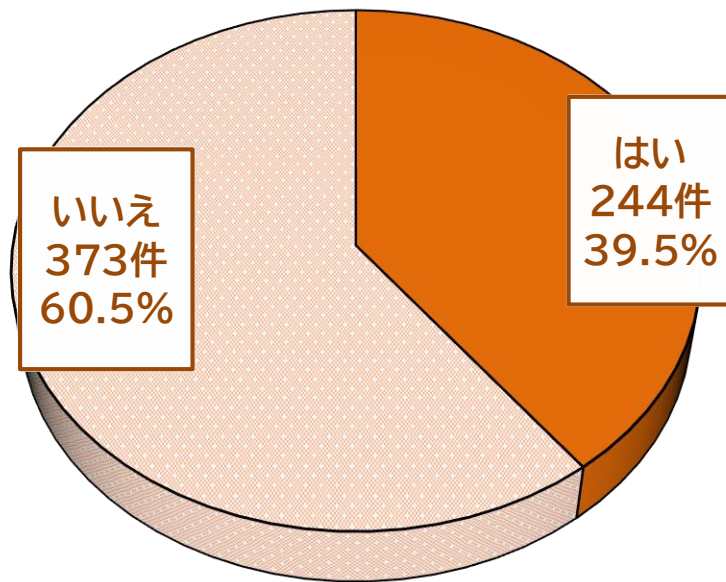


n=617

セーフコミュニティアンケート

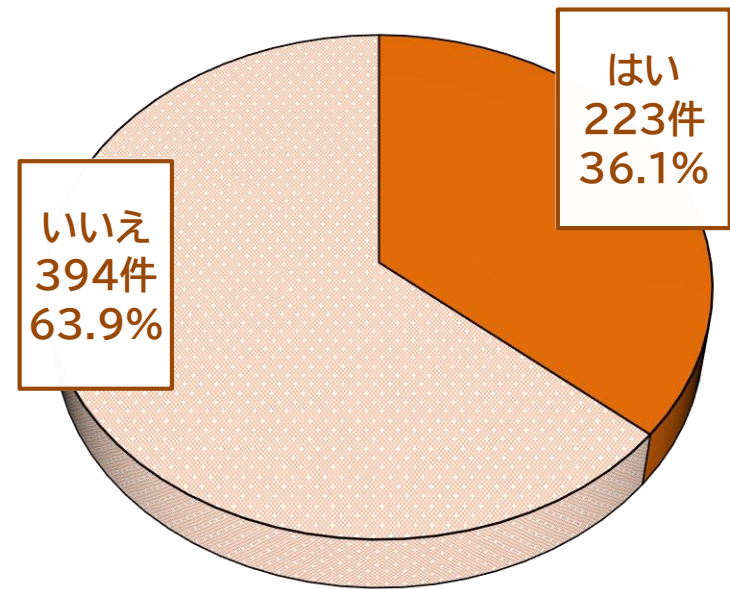
かめおか『セーフティドライブ』プロジェクトの認知度と
反射材の利用率も5割に届かず。さらなる広報が必要。

図表17 交通ルールを守り安全運転の輪を広げる「かめおか『セーフティドライブ』プロジェクト」を知っていますか。



n=617

図表18 反射材やライトを身に付けて外出していますか。



n=617

セーフコミュニティアンケート 分析結果の活用

分析結果の活用事例

① セーフティドライブプロジェクト

② オリジナル反射材ワークショップ **NEW!**

③ かめおか「まち・レコ」プロジェクト

④ 新型防犯カメラの設置等 **NEW!**

交通安全対策委員会のデータ活用事例

- ・2016年市民アンケートの「今後の不安について」の問いで、交通事故に「不安」と回答した割合が61.9%と自然災害と並んで最多
- ・セーフコミュニティ活動に「賛成する」「どちらかといえば賛成する」と回答した割合は67.6%と、市民理解は大きい



「セーフティドライブ」プロジェクト

2017年から市民参加型の取組を開始



シンボルマーク

交通安全対策委員会のデータ活用事例

- ・2022年市民アンケートでは、反射材の着用率が約36%と低い
- ・交通安全対策委員会でどうすれば普及するか、着けてもらえるか検討



オリジナル反射材ワークショップの実施



ワークショップの様子



作品例

小学校の子ども達が、大切な人が交通事故に遭わないように願いを込めて、ワークショップを通じて塗り絵反射材のお守りを作成。

防犯対策委員会のデータ活用事例

- ・2016年市民アンケートの「地域での安全安心活動について」の問いで「今後参加したい」と回答した割合が5割以上と高い



かめおか「まちレコ」プロジェクト

2017年から市民参加型の取組を開始



シンボルマーク

防犯対策委員会のデータ活用事例

2022年市民アンケートで、JR主要4駅設置の防犯カメラの認知度が約60%と約4割が知らないと回答



新型防犯カメラの設置等

防犯灯付き防犯カメラ、亀岡駅北防犯カメラ8台増設



JR亀岡駅北口付近



篠町自治会前



篠町王子風呂ノ谷付近

サーバイランス委員会の成果

成果①

日本は外傷データを収集するシステムがないが、委員会を設けたことで、救急搬送データ等の収集・分析ができるようになり、2010年分からデータの蓄積ができています。これはセーフコミュニティ未実施自治体では持っていない貴重なデータである。

成果②

以前は市職員だけではできなかった統計データの分析などができるようになり、より効果的な取組みにつなげることが可能になった。

成果③

効果検証を行う組織として設置したことで、各対策委員会に外傷データ分析結果等のフィードバックを行えるようになった。

分析結果のフィードバック事例

分析した結果を対策委員会に提供



データから見る亀岡市の実態（継続、新規課題）

「高齢者の転倒者数増加及び転倒場所について」

図6 高齢者の転倒場所別にみた救急搬送人数と発生率

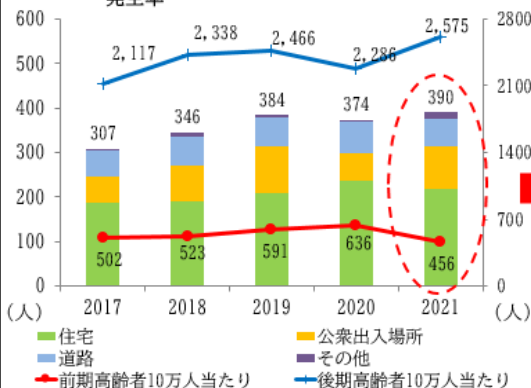
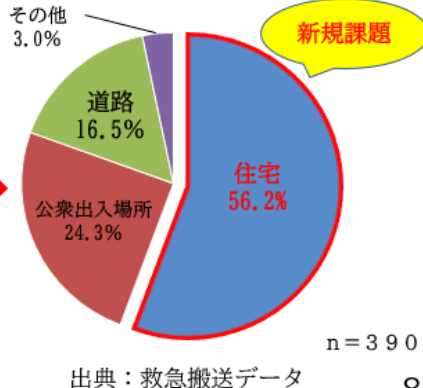


図7 転倒における発生場所の割合



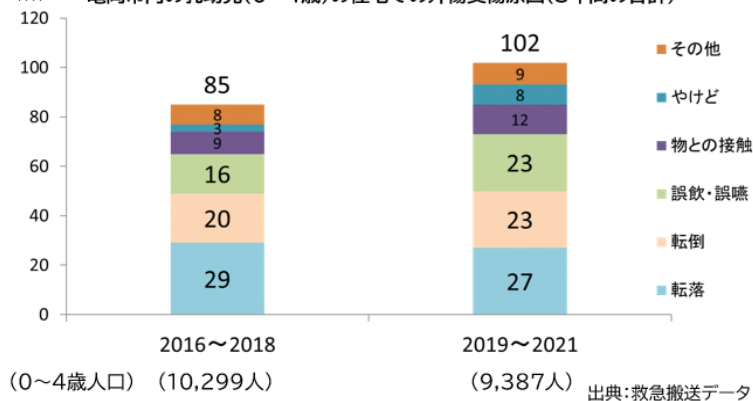
高齢者の安全対策委員会

データに基づく客観的課題（継続）

救急搬送データにおける乳幼児の住宅での受傷原因

①転落 ②転倒 ③誤飲・誤嚥 ④物との接触

亀岡市内の乳幼児(0~4歳)の住宅での外傷受傷原因(3年間の合計)



乳幼児の安全対策委員会

各対策委員会において、場所・要因別に集計したり経年比較を行い、課題の設定やプログラムの評価に活用できている。

課題と今後の方向性

課題①

2020年から2022年のコロナ禍において、自殺や交通事故件数、ケガの件数などの増減が、どれだけコロナの影響を受けてのものなのかを裏付ける分析が困難である。

課題②

過去に実施したアンケートが紙媒体であるため、Webアンケートとの回答数に差が大きく、比較分析が困難であること比較分析が難しい。

課題③

各対策委員会の成果や活動の「見える化」が不足している。



課題①への展望：新型コロナ禍以後の件数増減を分析し、どれだけ影響があったかを調べる。
課題②への展望：各対策委員会でもWebアンケートを適宜行い、その結果同士で分析する。
課題③への展望：広報紙や市ホームページ、YouTube等SNSを通じて情報発信に努める。